

核兵器全面禁止へ

被爆者と切り開こう



原水爆日本協議会は、2月6・7日今年間の反核運動を決める第88回全国理事会を開催しました。被爆者とともに核兵器全面禁止、非核日本の実現へ新たな前進を呼びかけました。

来賓の日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の岩佐幹三代表委員は、「被団協創立60周年の課題として、被爆者連名の国際署名を準備中です。一人ひとりが戦争と核兵器の被害に遭わないため、頑張るとあいさつしました。

安井事務局長が方針案を提案しました。昨年のNPT（核不拡散条約）再検討会議・ニューヨーク行動に結集した核兵器禁止条約の交渉開始を求める633万の署名は、核兵器禁止の流れを後押しする重要な役割を果たしたと指摘。国際世論に対立する核保有国などの「核抑止論」を打ち破ること

が課題だと強調しました。

今年の活動計画では、被爆の実相と核兵器廃絶の声を被爆者とともに内外に広める

活動を抜本的に強化し、日本被団協が準備している核兵器禁止の行動を全面的に支持するとしました。

戦争法を求め、2000万署名運動や、3・1ビキニデーの成功を呼びかけました。

詳細は「原水協通信」3月号をお読みください。

3・1ビキニデー集會に 栃木県から11人が参加！！

2月28日（国際会議）から3月1日まで、静岡県・焼津で開かれるビキニデーに県内から11人の代表者が参加します。

今年初めて参加する、大田原市の酒井則子さんは、今まで、仕事などで忙しく、行く機会がありませんでしたが、「参加して」の声をかけられ、今しかないと決意しました。

戦争法の問題、原発問題などを地域で取り組むなかで、3・1ビキニデー集會に参加し、いろんなことを学び経験し、そのことを若い人たちに伝えなければならないとの思いで参加を決意しました。

署名の到達（2月15日現在）

24、197筆

那須町での原水爆禁止運動について

那須町原水協 池田 一利

県北の那須町に東京から移り住んで十一年、転入手続きに何った役場で目についたのが庁舎前に立った古ぼけた「非核平和宣言都市」の立て看板でした。

長年風雨にさらされ文字も判別が定かでない、誰もがその存在すら気に留める人もいないように思いました。しかし、この看板を見た瞬間、かつて東京の港区で携わってきた平和運動を思いおこし、この田舎の小さな町でも人知れず平和運動を支えてきた人たちの営みがあることを知らされ感銘したものです。

それから数年が経過、町役場への働きかけが実り、「非核平和宣言」の看板は少し小さくなりましたが金属の立派な碑に生まれ変わりました。

そして、一昨年、昨年、二年続けて町役場の庁舎ロビーで原爆写真展を那須町と原水協の共催で開催することができました。町ではその後の運動で、いくつかの団体が生まれ、ようやく昨年、新婦人、革新懇、医療生協を中心に協力しあって那須町の平和行進実行委員会を作り地域住民の協力も得て、平和行進を成功させることができました。

今年も、昨年に続いて那須町から医療生協の仲間を3・1ビキニ集會に派遣しようと那須町として初めて先月から6・9行動をスパー前開始、52名のアピール署名とカンパが寄せられました。

2016年原水爆禁止

栃木県国民平和行進実行委員会結成総会

◆とき 4月16日（土）午後2時から ◆ところ とちぎ健康の森 教室A

平和行進ドキュメンタリー 「一歩でも、二歩でも」の視聴もおこないます